

堅田剛先生略歴・主要著作目録

略 歴

- 一九五〇年一月二七日 栃木県宇都宮市にて出生
一九六八年三月 栃木県立宇都宮高校卒業
一九七五年三月 上智大学法学部法律学科卒業
一九七七年三月 明治大学大学院法学研究科修士課程修了、法学修士
一九八〇年三月 明治大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学
一九八〇年四月 獨協大学法学部法律学科専任講師（法哲学）
一九八二年四月から 明治学院大学法学部非常勤講師（法思想史）
一九八四年三月まで 獨協大学法学部法律学科助教（法哲学）
一九八三年四月 中央大学法学部非常勤講師（法哲学）
一九八四年四月から 埼玉大学経済学部非常勤講師（法哲学）
一九八六年三月まで 明治学院大学法学部非常勤講師（法思想史）
一九八四年四月から
一九八六年三月まで
一九八七年七月二三日から
八月七日まで

一九八八年四月から
明治大学法学部非常勤講師(法思想史演習)

一九九〇年三月まで

一九九〇年四月
獨協大学法学部法律学科教授(法思想史、法哲学)

一九九〇年三月から
ドイツ連邦共和国(旧西ドイツ)ハイデルベルク大学哲学部留学

一九九一年三月まで

一九九二年一〇月二五日
法学博士(明治大学大学院)

一九九三年四月から
明治学院大学法学部非常勤講師(法思想史)

二〇〇五年三月まで

一九九四年四月から
東京大学教養学部非常勤講師(日本法思想史)

一九九六年九月まで

一九九五年四月から
獨協大学学長室委員

一九九八年三月まで

一九九八年四月から
獨協大学教務部長

二〇〇〇年三月まで

二〇〇〇年四月から
獨協大学法学部学部長、獨協大学大学院法学研究科委員長兼任

二〇〇四年三月まで

二〇〇六年四月から
明治学院大学法学部非常勤講師(法思想史)

二〇一二年三月まで

二〇〇八年四月

獨協大学法学部総合政策学科教授

二〇一一年四月から

獨協大学大学院法学研究科委員長

二〇一二年三月まで

二〇一三年四月から

明治学院大学法学部非常勤講師（法思想史）

二〇一四年三月まで

二〇一五年二月二七日

獨協医科大学越谷病院にて逝去

所属学会・学外活動

日本法哲学会

社会思想史学会

比較法史学会

法制史学会

法文化学会（二〇〇九年一月から 法文化学会理事）

獨協学園本内部監査室監査委員（二〇一三年四月から）

國學院大學井上梧陰学術奨励基金学外委員（二〇一三年四月から）

受賞

一九八六年十二月

第二回ヨゼフ・ロゲンドルフ賞（『法の詩学——グリムの世界——』）

二〇〇八年九月

吉野作造生誕一三〇年没後七五年記念最優秀論文賞（「吉野作造と鈴木安蔵——五つの『絶筆』をめぐって——」）

堅田剛先生主要著作目録

学位論文

一九七七年三月

「初期ヘーゲルにおける『ポジティヴイテート』概念について」法学修士（明治大学大学院）

一九九二年一〇月

「歴史法学研究——歴史と法と言語のトリアーデ——」法学博士（明治大学大学院）

主要著作

【主著】

一九八五年 『法の詩学——グリムの世界——』 新曜社

一九九二年 『歴史法学研究——歴史と法と言語のトリアーデ——』 日本評論社

一九九九年 『独逸学協会と明治法制』 木鐸社

二〇〇七年 『法のことば／詩のことば——ヤーコプ・グリムの思想史——』 御茶の水書房

二〇〇八年 『明治文化研究会と明治憲法——宮武外骨・尾佐竹猛・吉野作造——』 御茶の水書房

- 二〇〇九年 『ヤーコプ・グリムとその時代——「三月前期」の法思想——』 御茶の水書房
二〇一〇年 『独逸法学の受容過程——加藤弘之・穂積陳重・牧野英一——』 御茶の水書房
二〇一四年 『明治憲法の起草過程——グナイストからロエスラーへ——』 御茶の水書房

【翻訳】

- 一九八七年 ロバート・A・ニスベット著 『歴史とメタファー——社会変化の諸相——』 紀伊國屋書店
一九八九年 ヤーコプ・グリム著 『法の内なるポエジー』（ドイツ・ロマン派全集）第一五卷 共訳 国書刊行会
二〇一二年 オイゲン・ヴォールハウプター著 『詩人法律家』 御茶の水書房
二〇一三年 オイゲン・ヴォールハウプター著 『ゲーテとサヴィニー——続／詩人法律家——』 御茶の水書房

【共著】

- 二〇一三年 『加害／被害』 国際書院

教科書・事典等分担執筆

- 一九九〇年 寺澤一編 『法学の基礎』 青林書院 「第一章 総論」 分担
一九九八年 『岩波哲学・思想事典』 岩波書店
二〇〇〇年 獨協学園百年史編纂委員会編 『獨協学園史 一八八一—二〇〇〇』 獨協学園 「第五章 獨逸学協会の研究」 分担

二〇〇二年 小島武司編『ブリッジブック裁判法』 信山社 「第一六講義 法科大学院の課題——法曹養成の新局面——」分担

二〇〇三年 『哲学・思想翻訳語事典』 論創社

二〇〇五年 常岡史子、小柳春一郎編著『基本民事法』 成文堂 「I 民事法の内と外」分担

二〇一〇年 小島武司編『ブリッジブック裁判法』(第二版) 信山社 「第一三講義 法科大学院をめぐる諸問題」分担

主要論文

【主著】

一九七六年 「初期ヘーゲルにおける『ポジティブイテート』概念について」『明治大学大学院紀要 法学篇』 第

一四集

一九七七年 「法の実定性と歴史性——ヘーゲルの問題とその展開——」『明治大学大学院紀要 法学篇』 第一五集

一九七八年 「ヘーゲル、サヴィニー、グリム——ベルリン一八一八——」『現代思想』 第六卷第一六号

「ヘーゲルとサヴィニー——ヘーゲル国家論とその時代(二)——」『明治大学大学院紀要 法学篇』

第一六集

一九七九年 「ヘルダーとヘーゲル——ドイツ精神史の深層へ——」『思想』 第六六四号

一九八〇年 「ヤーコプ・グリムにおける童話と法——歴史法学研究(二)——」『獨協法学』 第一五号

一九八一年 「法の内なるポエジー——歴史法学研究(二)——」『獨協法学』 第一六号

- 『ドイツ法古事誌』と『フランス法の起源』——歴史法学研究(三)—— 『獨協法学』 第一七号
 「ヤーコプ・グリムにおける歴史と法と言語のトリアーデ——もう一つの歴史法学——」 『法の理論
 1』 成文堂
- 一九八二年 「グリムとミシュレ、あるいは法の象徴学」 『思想』 第六九九号
 一九八三年 「ヤーコプ・グリムの歴史法学」 『法哲学年報』 一九八二年号
 「ドイツ歴史法学」 長尾龍一、田中成明編 『法思想』(『現代法哲学 第二卷』 東京大学出版会)
 一九八五年 「言語と歴史——ヘルダーとグリムの言語起源論をめぐって——」 『哲学の展開』(『新岩波講座 哲
 学15』) 岩波書店
- 一九八六年 「法の詩学」 再考——ヴィーコ、ミシュレ、そしてグリム—— 『現代思想』 第一四卷第六号
 一九八七年 「ヴィーコと『法の詩学』」 『思想』 第七五二号
 一九八八年 「『法学者』としてのグリム——『三月前期』の法と政治のはざままで——」 『ソフィア』 第三六卷第
 四号
- 「ギールケ、あるいは法の内なるフォーム」 『獨協法学』 第二七号
 一九八九年 「イエーリング、あるいは冗談法学」 『獨協法学』 第二八号
 「アイケ・フォン・レプゴウ、あるいは法の数え歌」 『獨協法学』 第二九号
- 一九九〇年 「テイボー、あるいは法のコラール」 『獨協法学』 第三〇号
 「ガンス、あるいは法の普遍史」 『獨協法学』 第三一号
- 一九九一年 「ヘーゲル、あるいは哲学的法学」 『獨協法学』 第三二号

- 「サヴィニー、あるいは法の文法学」 『獨協法学』 第三三号
- 一九九二年 「ヤーコプ・グリムとフランクフルト国民議會」 『獨協法学』 第三四号
- 「穂積陳重の歴史法学——進化論から文体論へ——」 『獨協法学』 第三五号
- 「ヤーコプ・グリムとゲッティンゲンの七教授事件」 獨協大学法学部編『獨協大学法学部創設二十五周年記念論文集』 第一法規出版
- 一九九三年 「エドゥアルト・ガンスにおける法哲学と法史学」 『比較法史研究』 第二号
- 「穂積陳重の法典論——法典の『形体』について——」 『獨協法学』 第三六号
- 「穂積陳重の法思想——立法と法学の使命について——」 『獨協法学』 第三七号
- 「法のフェティシズムをめぐつて——森末伸行著『法フェティシズムの陥穽』を読む——」 『法の理論13』 成文堂
- 一九九四年 「牧野英一の法理学——法律進化論から自由法論へ——」 『獨協法学』 第三八号
- 「牧野英一のネクロロジ——自由法論を偲んで——」 『獨協法学』 第三九号
- 一九九五年 「独逸学協会とドイツ法学——加藤弘之および穂積陳重との関連で——」 『比較法史研究』 第四号
- 「独逸学協会学校専修科——ある法律学校の歴史——」 『獨協法学』 第四〇号
- 「西周訳『権利争闘論』をめぐつて」 『獨協法学』 第四一号
- 一九九六年 「『権利のための闘争』と『強者の権利の競争』——加藤弘之のイエーリング解釈をめぐつて——」 『獨協法学』 第四二号
- 「加藤弘之の国法学——ブルンチュリ『国法汎論』との関連で——」 『獨協法学』 第四三号

- 一九九七年 「諸外国の法律学（民法学）史——ドイツ——」 水本浩、平井一雄編『日本民法学史・各論』 信山社
- 「ロエスラーと独逸学協会——明治憲法との関連で——」 『獨協法学』 第四四号
- 「西哲夢物語、あるいは明治憲法制定始末」 『獨協法学』 第四五号
- 一九九八年 「ロエスラーとモッセ——ドイツ人法律顧問と明治法制——」 『獨協法学』 第四六号
- 「ガンス法、あるいは白鳥と鷺鳥の物語」 『獨協法学』 第四七号
- 一九九九年 「法哲学事始め——西周・加藤弘之・穂積陳重の思想史として——」 『法の理論18』 成文堂
- 「学術論文・宮武外骨の法パロディー」 『獨協法学』 第四八号
- 二〇〇〇年 「法の哲学と悪の哲学——『人間の尊厳』論に寄せて——」 三島淑臣、稲垣良典、初宿正典編『人間の尊厳と現代法理論——ホセ・ヨンパルト教授古稀祝賀——』 成文堂
- 「シュタインとは誰か——思想的な位置づけのために——」 『大学史研究』 第一六号
- 二〇〇四年 「ゲッティンゲンのイエーリング——二つの博士号をめぐる——」 『獨協法学』 第六四号
- 二〇〇五年 「明治二十年のファンシーボール——あるいは鹿鳴館外交の挫折について——」 『獨協法学』 第六六号
- 「ヤーコプ・グリムの『ドイツ法古事誌』——ドイツ学と国学のあいだ——」 『獨協法学』 第六七号
- 二〇〇六年 「尾佐竹猛と法の雑学——明治文化研究の一素描として——」 『獨協法学』 第六八号
- 「ハイネとガンス——『法学オペラ』と『相統法』——」 『獨協法学』 第六九号
- 「外骨雪冤祝賀会——大日本頓智研法始末——」 『獨協法学』 第七〇号
- 二〇〇七年 「グリム兄弟とゲッティンゲンの七教授事件」 伊坂青司、原田哲史編『ドイツ・ロマン主義研究』

御茶の水書房

- 「サヴィニーとグリム——二つの歴史法学——」『獨協法学』第七二号
- 「吉野作造と明治文化研究会——『ヘーゲルの法律哲学』から『嘆きの天使』まで——」『獨協法学』第七二号
- 「伊藤博文の憲法修業——吉野作造『スタイン、グナイストと伊藤博文』を読む——」『獨協法学』第七三三号
- 二〇〇八年
- 「『西哲夢物語』事件と明治文化研究会——憲法制定の裏面史として——」『獨協法学』第七四号
- 「ハインエテ学詩集——詩人法律家の誕生——」『獨協法学』第七五号
- 「ヘーゲル哲学と法の実定性——『法の哲学』の読み方について——」『獨協法学』第七六号
- 「サヴィニーとグリムの歴史法学——〈法の科学〉と〈法の詩学〉——」『法哲学年報』二〇〇七年
- 「吉野作造と鈴木安蔵——五つの『絶筆』をめぐる——」『吉野作造研究』第五号
- 「〈法〉の精神とその運命——ヘーゲル『初期神学論集』を読む——」『獨協法学』第七七号
- 二〇〇九年
- 「ヘルマン・ロエスラーと明治憲法——ロエスラー研究の系譜——」『獨協法学』第七八号
- 「三月前期の法思想——サヴィニーとグリム、そしてヘーゲルとガンス——」『思想』第一〇二三号
- 「ヘーゲルの〈法哲学講義〉——三月前期の思想史として——」『獨協法学』第七九号
- 「伊藤博文と明治憲法——憲法制定におけるドイツ人の寄与——」『明治聖徳記念学会紀要』復刊第
四六号
- 二〇一〇年
- 「憲法発布直後の伊藤博文——大赦・義解・欧米——」『獨協法学』第八〇号
- 「ルドルフ・フォン・グナイストの憲法講義——『グナイスト氏談話』を読む——」『獨協法学』第

八一号

「明治憲法を起草したドイツ人——ヘルマン・ロエスラー研究の系譜——」『聖学院大学総合研究所紀要』 第四八号

二〇一二年 「法の神学——法文化論のために・その一——」『獨協法学』 第八八号

「本居宣長とヤーコプ・グリム——二つの《国学》——」『明治聖徳記念学会紀要』 復刊第四六号

「法の詩学——法文化論のために・その二——」『獨協法学』 第八九号

二〇一三年 「法の哲学——法文化論のために・その三——」『獨協法学』 第九〇号

二〇一四年 「明治文化研究会の三博士——『西哲夢物語』をめぐって——」『吉野作造研究』 第一〇号

「フォイエルバッハとサヴィニー——法典論争外伝——」『獨協法学』 第九二号

「若きヘーゲルの宗教論、あるいは〈律法〉と〈道徳〉の弁証法」『獨協法学』 第九四号

「若きヘーゲルの《国制》論——『ドイツ憲法論』をめぐって——」『獨協法学』 第九五号

二〇一五年 「ヘーゲルの《点》、あるいは立憲君主制について——《点》とは何か——」『獨協法学』 第九六号

【翻訳】

二〇〇四年 「『独逸学協会学校』教師としてのゲオルク・ミヒャエリス(二)——『国家と国民のために』より——」『獨協法学』 第六四号

二〇〇五年 「『独逸学協会学校』教師としてのゲオルク・ミヒャエリス(二・完)——『国家と国民のために』より——」『獨協法学』 第六五号

より——」『獨協法学』 第六五号

二〇〇七年 「ヤークopf・グリムのサヴィニー宛書簡(二八一四年一〇月二九日付)——『立法と法学に対する現代の使命』と『法の内なるポエジー』」 『獨協法学』 第七二号

二〇一〇年 「A・F・J・テイボーとロベルト・シューマン(二)——ヴォールハウプター著『詩人法律家』その一——」 『獨協法学』 第八二号

二〇一一年 「A・F・J・テイボーとロベルト・シューマン(二・完)——ヴォールハウプター著『詩人法律家』その一——」 『獨協法学』 第八三号

「ハインリヒ・ハイネ(二)——ヴォールハウプター著『詩人法律家』その二——」 『獨協法学』 第八四号

「ハインリヒ・ハイネ(二・完)——ヴォールハウプター著『詩人法律家』その二——」 『獨協法学』 第八五号

二〇一二年 「E・T・A・ホフマン(二)——ヴォールハウプター著『詩人法律家』その三——」 『獨協法学』 第八六号

「E・T・A・ホフマン(二・完)——ヴォールハウプター著『詩人法律家』その三——」 『獨協法学』 第八七号

【研究ノート】

一九八五年 「『厳密でない学問』としての法学」 『季刊へるめす』 第五号

一九八六年 「ある選挙結果」 『現代思想』 第一四卷第八号

一九八七年 「ヤーコプ・グリムとドイツ近代」 『高校通信 東書』 第一三〇号

【書評】

一九九〇年 尼ヶ崎彬著 『ことばと身体』 『言語』 第一九卷第六号

一九九六年 「流浪の民にして自然の王者ロマ——現代文明への根本的な懐疑が——」 相沢好則著 『ロマ・旅する民族——ジブシーの人類学的考察の試み——』 『図書新聞』 六月一五日

中井晶夫著 『ドイツ人とスイス人の戦争と平和——ミヒャエーリスとニッポルト——』 『比較法史研究』 第五号

一九九八年 Paul-Christian Schenck. *Der deutsche Anteil an der Gestaltung des modernen japanischen Rechts-*

und Verfassungswesens: Deutsche Rechtsberater im Japan der Meiji-Zeit. 『比較法史研究』 第七号

一九九九年 居石正和著 『府県制の編纂と「ロエスレル氏府県郡制論」』 『法制史研究』 第四八号

二〇〇〇年 石村修著 『明治憲法 その獨逸との隔たり』 『法律時報』 第七二卷第三号

二〇〇九年 村上一博編 『日本近代法学の揺籃と明治法律学校』 『法制史研究』 第五八号

遠藤泰宏著 『オットー・フォン・ギールケの政治思想』 『社会思想史研究』 第三三号

森川潤著 『明治期のドイツ留学生』 『日本歴史』 第七三九号

【隨筆】

一九八六年 「ハウ・トゥー知的生活」 『獨協大学学報』 第一三三号

一九九一年 「ドイツ統一の日」 『言語』 第二〇卷第一号

一九九二年 「ハイデルベルクの図書館」 『獨協大学学報』 第一九号

「歴史と法学の接点」 『聖教新聞』 八月四日

一九九六年 「ヴェルツブルクのシーボルト」 『聖教新聞』 一月二二日

二〇〇八年 「万年学生」 『宇高同窓会報』 第五五号

二〇一一年 「毎日が同窓会」 『獨協大学学報』 第二七号

【その他】

一九九四年 「獨協大学——ねらいは専門教育の強化——」 『法学教室』 第一六二号

二〇〇三年 「ミヒャエリス書簡集の翻訳に寄せて」 ベルト・ベッカー著、酒井府、ハンス・ハルトムート・ゲー

トケ編、獨協大学外国語学部ドイツ語学科翻訳 『ゲオルク・ミヒャエリス——ドイツ帝国宰相と獨逸

学協会学校——』 獨協大学外国語学部ドイツ語学科

二〇一〇年 「裁判所に行こう」 『法廷傍聴ガイド』 獨協大学法学部

この略歴・主要著作目録を作成するにあたっては、堅田智子氏（上智大学大学院文学研究科
史学専攻博士後期課程）に多大なるご協力を頂きました。（獨協法学編集委員注記）